

令和元年度大谷中学校・高等学校

学校関係者学校評価委員会

はじめに

本校の学校関係者学校評価委員会は今年で6年目の実施となりました。従来からの教員自己評価に加えて、生徒・保護者アンケートを実施してまいりました。

生徒アンケート、保護者の皆様にもアンケートにご協力をいただき、その結果をもとに本校の教育活動の更なる向上をはかるために学外有識者により令和元年度学校関係者学校評価委員会を実施する予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は書面送付によりご意見を賜る形で行いました。

近隣小学校校長・中学校校長・受験関連業者・元PTA代表・PTA代表・卒業生代表・併設大学代表の方々に構成委員となっただき、本校が今後とも開かれた学校として発展していくための貴重なご意見を賜りました。

【日 時】 令和2年8月

【委 員】 (敬称略) 13名

田村 敬子	大阪市立松虫中学校校長
松下 淳則	大阪市立丸山小学校校長
米村 淳	(株)五ツ木書房取締役
芳山 龍二	卒業生の保護者 (元PTA会長)
上村 茂三	在校生の保護者 (令和元年度PTA会長)
中野 永実	卒業生
宮下 和之	大阪大谷大学副学長
堀川 義博	校 長
永田 幸子	教 頭
三分一清隆	教務部長
岩出 隆子	進路指導部長
村井 康容	生活指導部長
伊藤 良太	海外教育部長

○資料

資料1 『令和元年度 大谷中学校・高等学校 学校評価』
資料2 『令和元年度 教員による学校自己評価』
資料3 『令和元年度 保護者アンケート』
資料4 『令和元年度 生徒アンケート』

令和元年度 大谷中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲と社会の変化に的確に対応し得る能力を育み、21世紀社会を正しく生きるための幅広い社会認識を持たせる。

心身ともに健全で美しい女性を育成する女子校として、宗教的情操教育を基盤とした生活指導の徹底と進学校としてのより高度な学力養成をはかり、慈悲の心を有する優しい女性、礼儀正しい美しい女性、高い知力を備えた聡明な女性を育む。

2 中期的目標

1. 学習指導

- ① 学力向上と進路希望実現への取り組みを強化するために、教員の授業力向上をはかる。
- ② 教員間、教科間の連携による授業の充実をはかる。
- ③ 基礎学力を定着させる。
- ④ コースに応じた学力向上の取り組みを強化する。

2. 進路指導

- ① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。
- ② 中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開に努める。
- ③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、中学生の早い時期から、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。

3. 生活指導

- ① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。
- ② 生徒対象に防災教育、SNSや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。
- ③ 教員対象に生活指導に関する研修を受け、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。
カウンセリングや必要に応じた特別支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じたいっそうの指導、対応に努める。

4. 海外教育

- ① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。
- ② 異文化理解に努める。
- ③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。
- ④ 英語力の習得のため、大谷1年留学、3か月留学の充実を図る。

5. 生徒募集・広報活動

- ① 大阪私立女子の生徒募集が厳しい状況下で、募集定員の確保のため積極的に入試広報活動を展開する。中学校・高等学校とも幅広く周知できるよう広報活動を徹底する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	① 教員の授業力向上	① 教員の授業力向上 ・授業研鑽週間をⅢ学期に設ける。 ・Ⅰ学期、Ⅲ学期に国数英理社の研究授業を実施する。	① 教員の授業力向上 ・中学、高校それぞれの授業を1時限以上見学し、報告書を提出の上授業担当者にフィードバックする。	① 教員の授業力向上 ・授業を自由に見学できる期間をⅢ学期に設けたので、余裕を持って授業見学ができた。また、他教科の授業を見学したり、年代の違う教員の授業を見学したことで、様々な刺激を受けて、自分の授業に活かすことができたようである。(◎)
		・夏季休暇中に実施される、外部教員セミナーに派遣する。	・国数英理社で計10名を派遣する。	・セミナーに参加した教員の学習指導内容が改善された。(○)
	② 教員間、教科間の連携による授業の充実	② 教員間、教科間の連携による授業の充実 ・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。	② 教員間、教科間の連携による授業の充実 ・学習指導委員会による検討内容が全教員に伝わり、学年間や教科間での連携、状況認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かされる。	② 教員間、教科間の連携による授業の充実 ・学習指導委員会の会議内容は、学年会議を通じて毎週報告をした。これにより情報交換と伝達がスムーズになり、教員間、教科間の連携がとれ、生徒の学習到達状況の把握と対策が行えた。(◎)
	③ 基礎学力の定着	③ 基礎学力の定着 ・基礎学力定着のための小テストを、全学年で毎日実施する。	③ 基礎学力の定着 ・全員合格を目指して指導する。成績不十分者には追試や課題などを与え、小テストにより基礎学力を定着させる。	③ 基礎学力の定着 ・小テストへの教員、生徒の取り組みが改善され、基礎学力の定着に効果が現れた。中一・二の現状を鑑み、小テストの実施について改善が見られた。(◎)
		・中学では長期休暇中の講習時に、スローラーナー対策の補習を実施する。対象の生徒は成績を鑑みたくえで指名する。	・スローラーナー生徒の基礎学力の向上。	・スローラーナー対策の補習を実施する時間が充分にとれなかったため、実際に補習して生徒の基礎学力を向上させることができなかった。(△)
	④ コースに応じた学力向上の取り組み強化	④ コースに応じた学力向上の取り組み強化 ・管理職会議、学習指導委員会において、生徒の考査成績や模試成績をよく分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。	④ コースに応じた学力向上の取り組み強化 ・考査や模試の偏差値で40以下となるような成績となる生徒をなくす。	④ コースに応じた学力向上の取り組み強化 ・中学、高校とも、低学力層の生徒に対する手当が十分ではなかった。(△)
		・ICT機器などを活用し、「新しい学力観」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。	・生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得する。	・教員のICT機器の活用が増え、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高揚させることができた。また、プロジェクターなどを生徒の理解を助けるために、有効活用できている。(◎)
		・中学一年、二年において、All Englishの授業を実施する。	・1クラス2展開で全コース実施する。	・All Englishの授業は実施でき、その効果が出始めている。(○)
		・アクティブラーニング授業を積極的に取り入れ、主体的な学習態度を育てる。	・授業の中に短い時間でもよいので、生徒が主体的に活動する時間を設ける。	・英語、数学、国語、理科、社会に加え、芸術、技術、家庭、情報の教員がアクティブラーニングの取り組み、その効果が表れている。(◎)

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路指導	① コース制を生かした丁寧な進路指導 ア) 高3以上は特進Ⅱ・特進Ⅰ・医進コース、高2以下は凛花・特進・医進コースのそれぞれの特徴を踏まえた目標を達成するためのサポート。	① コース制を生かした丁寧な進路指導 ア) ・毎週の平常講習や長期休暇中の講習を開講することにより、学習の補充を行う。コースごとに、模試等の成績を細かく分析し、個々に対策を考え、補充を行う。 ・コースによっては、卒業生（チューター）を活用して、少人数個別指導を導入する。（高2特文医進12月特講・高1勉強合宿）	① コース制を生かした丁寧な進路指導 ア) ・各コースの講習の規定を遵守しているかを点検。内容・実施方法についても生徒のニーズを尊重し、70%以上の満足度を目指す。 ・卒業生（チューター）を導入する特別講習や勉強合宿において、生徒の学習意欲の向上を目指す。	① コース制を生かした丁寧な進路指導 ア) ・講習の内容・実施方法については、概ね規定に沿っており良好に実施された。生徒はほぼ満足しているようであるが、学年・コースによっては、習熟度の差が大きく、模試結果から判断すると十分に成果がみられない学年もあった。次年度には、講習のあり方も含めて検討する。（○） ・卒業生（チューター）を導入した特別講習は、通常の講習ではできない丁寧な指導が可能になり、生徒たちの意欲涵養・学力向上に非常に効果的であった。（高2特文12月数学特講、高2医進12月英語特講、高1特進勉強合宿を実施。（◎）
	イ) 生徒一人ひとりの状況を把握し、その生徒に最も適切な学習環境の提供。	イ) ・中学校低学年においては、コース変更を柔軟に行い、個々の学習ペースに適した学習環境を整えることに重点を置く。 ・学習意欲の鼓舞を目的として、成績不振者およびその保護者への担任面談や進路指導部長面談を適時行い、生活改善に向けたカウンセリングの機会を設ける。	イ) ・各学期に1回以上、コース変更対象となる生徒とその保護者に対して懇談会を実施する。 ・進路指導部においても、各学期に1回、コース変更対象生徒の懇談を実施する。	イ) ・コース変更によって、個々の生徒の学びの状況の問題点を解決できた。しかし、コース変更による心理的負担も少なくないので、変更後の状況は引き続き慎重に観察していくべきである。（◎） ・コース変更については、特に低学年では心理的にデリケートな問題である。各学期に1回以上懇談を行い、生徒・保護者にも趣旨をしっかりと説明し理解をしていただくよう努めたことは効果があった。（◎）
	② 6年間を見通した適切な進路指導 ア) 進路実現に向けた取り組みの強化による進学実績の向上。	② 6年間を見通した適切な進路指導 ア) ・生徒自らが適切な進路選択をすることができるように、安きに流れることのない高い志を持たせる。それぞれの学年の成績状況・傾向・気質などに留意し、補うべきところは、早期に、その都度効果的な対策を講じる。 （高3特進医進の小論文対策および面接指導、高3医学部英語特講、高3特文英語特講など）	② 6年間を見通した適切な進路指導 ア) ・国公立大学合格者数が在籍人数の20%を下らないこと、医学部医学科合格延べ20名、関関同立大の合格が前年度を下回らないことを目標とする。	② 6年間を見通した適切な進路指導 ア) ・生徒の将来への希望を最大限応援できるように、学年・担任を中心に指導できた。特に、推薦入試・AO入試においては、面接・小論文は不可欠であり、対策は効果的に実行でき、生徒の満足度も高かった。（高3医学部英語特講・高3特進医進の小論文面接指導） ・目標合格者数については学年全体の意識も高く、連携努力も功を奏し満足できる結果が出た。在籍が昨年度比77%であるにも関わらず、国公立大学合格者数は昨年より1名多い49名であった。また、医学部医学科への合格者数は過年度生の活躍も大きく、22名となった。しかし、関関同立については、多くの生徒が医療系を志望をしていることから、受験者数が著しく減少しており、多くの合格者数は望めなかった。（◎）
	③ 「解のない時代を生きる力」を育てる幅広い進路指導 ア) 各学年・各コースに適したキャリア教育の推進 ・中1・2年：「自分を知る・さまざまなことを体験する」 ・中3・高1：「自分を表現する・自己の適性を見つめる」 ・高2・3年：「社会で生き抜いていく力を備えた自己実現をめざす」	③ 「解のない時代を生きる力」を育てる幅広い進路指導 ア) ・6年間を3つのくくりで考えることで、成長の段階を的確にとらえその時期に何を身に着けさせるかを明確にし指導する。 ・低学年においては自分の周りや比較的身近なところから将来を、考えさせるきっかけ作りをし、学年を経るにつれて、様々な体験を将来につなげられるようなキャリア教育の工夫を行う。	③ 「解のない時代を生きる力」を育てる幅広い進路指導 ア) ・各学年各学期に1回以上は将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。 ・キャリア教育の意義が生徒に伝わるよう工夫し、生徒の意見・感想を確認することによって、参加生徒の80%以上の満足度を目指す。	③ 「解のない時代を生きる力」を育てる幅広い進路指導 ア) ・個々の目標（学期に1回の実施）は日程調整の困難さから達成できていない部分がいくらかあった。他の行事や授業日、講習日との兼ね合いが問題となっている場合がある。（○） ・学年・コース・クラスによっては、キャリア教育に対する理解の統一ができず、有意義に取り組めなかった学年・コースもあった。次年度からは、より系統的なキャリア教育の構築を進めなければならない。アンケートによると、生徒の65%以上、保護者の75%以上は、その意義を十分理解されており、ある程度満足度も上がってきているが、目標の80%を目指してさらに工夫を重ねていきたい。（○）
	イ) 2020年度以降の教育改革に向け、中学低学年より新聞などを利用した「読む・書く・話す」力、新学力養成のための取り組みの推進と、探究型の学習などによる問題解決能力の育成。	イ) ・各学年において、小論文指導を生徒の成長段階に応じて取り組む。 ・探求型の学習を進め、自ら問題意識をもって主体的に学ぶ姿勢を育てる。 ・外部施設を使用した体験学習・見学会、併設大学に向いての中高大連携授業など、生徒のモチベーションを上げるための「しかけ」を工夫する （近畿大学医学部見学会・大阪大谷大学見学会・市立防災センター・神戸キッザニア・起業家ミュージアムなど）	イ) ・適切な教材を用いて生徒に「書く」機会を定期的に与える。 ・探求学習を行う。 ・探究的学習を各教科の指導においても積極的に取り入れる。 ・外部施設を使用した体験学習や見学会等へ、各学年各コースとも複数回参加する。	イ) ・各学年において、適切な教材を選定し、定期的にも小論文を書かせる取り組みを実施できた。（○） ・中学2・3年生全体で、生徒自身が課題を見つけられるような参考資料を与え、レポート提出による指導でグループによる探求学習を進められた。クエストカップについては、新型コロナウイルスの影響で大会は実施されなかったが、オンライン参加ができたグループもあった。年ごとに指導の実績を重ねてきつつあるので、次年度につなげていきたい。（◎） ・体験学習・見学会・出前授業などは各学年各コースとも活発に取り組めた。さらに、それぞれの学年・コースで、生徒の状況に応じて、内容・実施時期など、様々な工夫ができた。（◎）
	ウ) 校内に講師を招いての講演会や実験会を積極的に実施することによる向学心の育成。	ウ) ・看護師出前授業や大学講師による物理実験会、京大講師の出前授業、医学科志望者向けの面接・小論文指導の講演などを活発に導入する。	ウ) ・外部講師を招いての講演会を、高校各学年において、1回ずつは実施する。	ウ) ・外部の専門家による出前授業は、計画通り実施できた。生徒の興味を引き出すことになり、将来の進路実現に向けて意欲を向上させた。（◎）
	エ) 医師体験・看護師体験・ボランティアの推奨による社会を見る機会の提供。	エ) ・大阪民医連や大阪府健康医療部などの団体の協力を得て、高1・高2の時期に医師体験・看護師体験に参加させたり、医学生との交流の場（しゃべり場）への参加を奨励する。 また休暇中のボランティア参加についても、申請書・報告書の様式を整え、学校で管理できる態勢で参加させることを勧める。	エ) ・休暇中に行われる体験学習への参加を勧め、学年の20%以上の参加を目標とする。	エ) ・医師体験・看護師体験や種々のボランティア活動へは多数の生徒の参加があり、生徒たちの反応もよく、体験学習を通してモチベーションアップにつなげることができた。今後も継続推奨すべき活動である。（◎） ・「いのち学生フォーラム」積極的に参加したグループの一つが最優秀賞を得るという好成績を上げることができた。また、卒業生の大学生による「医療者をめざす君たちへ」の出張授業には、中3～高2の生徒が参加し、医療関係の仕事への理解とモチベーションを高めた。（◎）

項目	今年度(令和元年度)の重点目標		具体的な取組計画・内容		評価指標		自己評価	
生活指導	①	年間生活目標の設定	①	年間生活目標の設定	①	年間生活目標の設定	①	年間生活目標の設定
		ア)「あいさつ」		ア)・曜日ごとに中1から高3まで学年当番による登校指導を実施。 ・定期考査期間中は下校指導も加えて実施。教員から生徒に積極的に「声かけ」を実践する。 ・来校者をはじめ地域住民の方々にも積極的に挨拶ができることを努力目標とする。		ア)・誰に対しても笑顔で自然な挨拶ができるように努める。 ・クラブ活動で身についた挨拶の習慣をひろげる。		ア) 教員からの働きかけもあるが、挨拶・言葉遣いに変化が認められるようになった。今後も根気よく生徒への「声掛け」を継続する。教育活動すべてにおいてそうであるが、「率先垂範」を教員自らが地道に実践していくことが最も重要なことである。(○)
		イ)「ていねいな言葉遣い」		イ)・教員自らが襟を正し、丁寧な言葉遣いで生徒に接する。誰にでも「笑顔で自然な挨拶」ができることを目標に、講堂朝礼等の生徒集会の機会を活用して「言葉のたいせつさ」を伝えていく。		イ)・友人や親しい関係の人に対しても、丁寧に優しい言葉遣いができているか。教員も生徒には丁寧な言葉遣いを意識する。		イ) 丁寧な言葉遣いは、まだ十分とは言えないが徐々に変化が認められるようになった。教員自ら襟を正し教員の言葉遣いが生徒に反映することを肝に銘じておきたい。(△)
		ウ)「時間厳守」		ウ)・毎日の登校指導において、生徒への呼びかけを継続。また、遅刻回数の記録をもとに個別面談を行い生活習慣の見直しをさせ生活日課表を作成させる。 ・各授業に遅れないよう注意喚起する。そのためにも教員が早めに教室に赴く。		ウ)・時間の大切さについて日頃から意識できているか。 ・授業開始に遅れないよう授業の準備ができているか。		ウ) 中・高とも総遅刻回数は減少傾向にある。(◎) ※両親共に早朝から出勤される家庭も多くそのため生徒が寝坊するというケースも結構多く認められる。 中学遅刻回数 前年度1565回→今年度1510回 高校遅刻回数 前年度1776回→今年度1612回
	②	生徒対象の講演会等	②	生徒対象の講演会等	②	生徒対象の講演会等	②	生徒対象の講演会等
				・全教職員・全生徒対象:「防災避難訓練」阿倍野消防署指導		・1学期に実施。阿倍野消防署の指導を受ける。 ※阿倍野区役所防災担当との連携を深める。		・地域防災担当の方々・行政の指導も仰ぎつつ、今後も折に触れ生徒の防災意識高揚に努める。 ※2018年度から全校生徒および職員分の災害用備蓄品を購入し学校で一括保管することとした。(◎)
				・中学1年生対象:「SNSの実態とその危険性」(阿倍野警察署生活安全課職員による講演) ※オリエンテーションにて実施 ※中1入学式当日には、保護者対象にも同種の講演会を実施		・SNSの危険性については、今後も繰り返し指導が必要。情報モラル教育も含め徹底していく。		・携帯電話校内持ち込みを容認して以来、保護者からの安心の声は多く届けられているが、使用にあたっては保護者の監督が不可欠である。 ・家庭での使用ルール設定等の協力もお願いしていく。 ・SNSに関して、今後もモラルとリテラシーの両側面から強化していく必要がある。(◎)
				・中学2年生対象:「薬物の危険性について」 ※生活指導部による講演		・国・自治体からも「薬物の指導」は義務づけられており、DVDも利用しながら丁寧に指導している。		・薬物のもたらす危険性についてある程度の情報は伝えられた。 ・SNSとの関連も含めての指導を心掛けた。(○)
				・中学3年生対象:「性犯罪被害について」(阿倍野警察署生活安全課職員による講演)		・中高生が性犯罪の被害にあっている現状と被害にあわない為にどうするべきか?DVDを見て危険性について具体的に指導。		・講習は、ドラマ化されたDVDを見てSNSの危険性等を含めて指導できた。(◎)
				・教員・クラブ代表生徒対象「心肺蘇生研修」実技指導		・学校内外を問わず人命救助の意識高揚をはかる。		・講習は、理論と実践を兼ね備えたいへん分かりやすく生徒にも好評である。(◎)
③	教職員対象の研修会、カウンセリング等	③	教職員対象の研修会、カウンセリング等	③	教職員対象の研修会、カウンセリング等	③	教職員対象の研修会、カウンセリング等	
			・生活指導部研修:「多様な個性が輝く社会へ」(非営利型一般社団法人日本LGBT協会代表理事:清水展人先生による講演)		・教職員に必要と思われるテーマを設定し、外部講師を招聘して研修会を年1回以上実施。		・「性の多様性について」理解する指標(性的指向・性自認・性表現・性的特徴) ・具体的なケアとして学校現場でできる支援に向けての「相談しやすい先生」についても、詳説して頂き即実践できる情報が得られ 有意義な講演であった(◎)	
			・人権教育研修:「多様なセクシュアリティの子どもたち」(NPO法人NAAH 理事:川西寿美子先生による講演) ※知ることからより良い対応を考える		・人権に係わる諸問題をテーマに年1回以上研修会を開催。周辺事情・背景知識を得ることが肝要。		・生物学・セクシュアリティ・社会の対応・子供たちの困り・私たちの意識 教職員・保護者・生徒たちとの連携・対応等についても懇切に解説を頂き大変有意義であった。(◎)	
			・生活指導部と学園カウンセラーとの連絡協議会 ※学園相談室カウンセラーとの情報交換会を学期ごとに実施		・本学園相談室カウンセラーと生活指導部との情報交換を毎学期実施。		・相談室カウンセラーと教員が良好な協力関係を維持するためにこの連絡会議は非常に重要であり、有意義である。(◎)	

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
海外教育	① 国際感覚の育成	① 国際感覚の育成 ア) 姉妹校との交流 ・オーストラリアの姉妹校3校、ニュージーランドの姉妹校1校、今年度4月の訪問はなし。 * オーストラリア研修 12日間 * ニュージーランド研修 8日間 * タイ姉妹校体験入学 8日間	① 国際感覚の育成 ア) ・参加人数の確保 オーストラリア 35名 ニュージーランド 31名 タイ 4名 ・研修の実施 ・安全対策と危機管理(事前の調査と対策) ・異なる社会への理解 ・外国語の習得意欲	① 国際感覚の育成 ア) ・AU研修は初回の募集で定員を上回る人数が集まった。学年により応募状況も異なるようであるが、今回は中学三年が18名、高校1年が15名で、ほぼ同数であった。また、各コースからの応募者があり、どのコースの生徒も興味を持っていると考えられる。(◎) ・NZ研修は1回募集で、定員以上を集めることが出来た。募集時対象となる学年は中学1年、2年であるためか、例年応募後のキャンセル者が多い。今回も数名のキャンセルが出て、最終的には奨学金派遣の生徒4名を含め、31名の参加となった。(◎) ・一昨年から始まったファームステイは今年も好評であった。 ・第一線を退いたセミリタイアの白人夫婦の家庭が多く、緑豊かな良い環境で、ゆっくりと生徒たちの相手をしていただく時間もおり、生徒たちは非常に満足していた。(◎) ・姉妹校に3日間世話になり、授業に参加したり、英語と日本語、両方の言葉で交流したり、ダンスや料理の体験学習を行った。 ・現地姉妹校の教員は本校の訪問に慣れており、有意義なプランを準備してくれた。(◎) ・タイ研修は久しぶりに実施し、有意義であった。(◎) ・海外研修に関しては、生徒の安全を第一の優先事項として、計画立案を行っている。特に、重篤なアレルギー症状を呈する可能性のある生徒や疾患を持つ生徒に対しては細心の注意を払っている。事前に保護者との連絡を密に行って情報を得て万全を尽くしている。(○) ・研修全体で大きなトラブルはなかった。NZ研修でスーツケースの鍵を紛失した(x)。添乗員の機転で乗り切った。 ・研修実施後のアンケートによると、英語をさらに勉強して意思疎通がより図れるようになる必要がある、と多くの生徒が答えた。(◎) ・日本との文化の違い(学校や家庭も含め)を痛感した生徒が多かった。今後の自分の生き方にも大きな影響を与えた。(◎)
		イ) 海外姉妹校生徒のホームステイ受け入れ。 セント＝キャサリン校の生徒1名(9月21日～10月8日) ・本校の高2・高1にホームステイ、授業・講習・クラブ活動に参加。文化祭にも参加。 オークランド＝ガールズ校の生徒3名 12月後半から1月初旬まで ・本校の生徒6名にステイ・交流。 ・京都・奈良・大阪城・住吉大社などへ観光。	イ) ・ホスト家庭数の確保 ・姉妹校生徒との交流 ・姉妹校生徒への共感と思いやり ・文化の違いの理解と容認	イ) ・ホームステイ引き受け期間の長短に関わらず、留学生との関係は卒業後も永く続いている生徒が多い。(◎) ・年末から年始にかけて約4週間、姉妹校オークランドガールズの生徒3名の生徒が本校生徒宅でホームステイした。 なかなか、ホームステイを引き受ける家族が集まらず苦労している。 以前に海外研修に参加した生徒の中から申し出があつて助かった(○)。 ・この時期、本校は講習期間であり、ホストを引き受けた生徒は講習中であるため、すでに進路の決まった高校3年生対象にパディー(世話役)を募集した。 5名のボランティアがあり、交代しながら5名の姉妹校生徒の相手をしてくれた。 結果として、本校生徒にとっても「大変良い経験になった。とても楽しかった。」とのことであった。(○)
		ウ) 姉妹校大谷訪問の受け入れ。 ・今年度は希望者なし。	ウ) ・特別授業の企画 日本文化を経験できる内容のもの ・体験授業の設定 日本の学校生活を経験できるもの ・校外研修の企画 日本の文化・生活を経験できるもの ・交流行事の企画 本校生徒と姉妹校生徒が協働できるもの ・ホスト生徒の募集、ホスト保護者の対応 ・ホスト生徒への注意事項徹底(校内・校外での行動など)	ウ) ・同時に50名以上の姉妹校生徒が本校に滞在することとなり、ホストファミリーの確保が最大の問題になると考えたが、来日生徒の数以上のホストの申し出があった。本校生徒、家族の関心の強さがうかがえる(◎) ・本校生徒やその家族にとっても、姉妹校生徒を受け入れた経験は貴重な経験となり、特に家族からは、機会があればまた姉妹校の生徒を受け入れたい、という声を多く聞くことができた。(◎) ・特別授業は、書道・浴衣の着付、ブックマーク作りなどを、教員の協力を得ながら行った。 また、英会話のクラスに参加してもらい、ホスト以外の生徒とも交流を持てるようにした。 本校生徒たちにとっては、言葉の違う相手と話すことの経験は貴重なものであった。一生懸命話をすると、相手も懸命に聞こうとしてくれる。この経験は自信につながり、さらには少しでも通じるように語学を学びたいという動機にもなっている。(◎) ・凧花コースの生徒が大阪の街を案内するフィールドワークのプログラムを以前完成させていた。下級生を対象にしたこのプログラムを、姉妹校生徒にも経験させ、凧花コースの生徒たちが実際に姉妹校マキロップ校の生徒を大阪の町案内に連れ出した。 引率には本校の当該コースの教員が当たり、多方面からの協力を得て、成功させることができた。(○) ・3校の予定がそれぞれ違うため、空港までの送りや、京都・奈良への日帰り旅行の付き添いが、担当部署の教員には相当の負担となった。 授業を変更するなどどうにか対応した。(△)

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
	② 異文化の理解	② 異文化の理解 ア) ・外国人を招き、自国の文化、日本との違い、海外での活動について講演を依頼。 ・外国から見た日本文化の魅力を知り、発信できる英語力とその方法を知る。 ・フィリピン人アルビン=タンさん 「フィリピン人から見た日本の生活」 イ) 一年間留学生生の受け入れ。 ・タイ王国の姉妹校クカン校より1名。 ・民間団体AFSの推薦によりドイツミュンヘンから1名。	② 異文化の理解 ア) ・参加生徒の確保 ・生徒の興味と話の内容の一致 ・海外研修参加者の国際性涵養をめざす ・ポスター・校内放送で全校生徒に啓発 イ) ・タイ留学生 在留資格認定証明書の取得 手続きに必要な書類の作成 * 留学生 * ・一年を通じて日本語レッスンの時間を設け、日本語検定合格を目指す。(週5～6時間) ・学年を超えて学校行事に参加し、本校の一員として受け入れられているという実感を持つことで、留学生生活を有意義なものにする。 * 本校生 * ・留学生の立場を理解し、思いやりの心を育む。 ・他国の文化や考え方の違いに気付く。	② 異文化の理解 ア) ・この春から本校で英会話の指導を担当する、アイルランド出身の教員に講演を依頼した。 日頃から、本校生徒と接しているため、生徒の理解力を知ったうえで、生徒が分かるであろう言葉をできるだけ使って話をしてくれた。(○) ・舞台衣装の作成など、母国で学生時代に勉強していたことを中心にした話であったが、生徒たちは非常に興味を持っていた。(○) イ) ・今年度タイの留学生はバレーボール部に参加して交流を深めた。 ・AFSのドイツの留学生は、バドミントン部に入り他学年の生徒とも交流した。 ・留学生が修学旅行や体育大会、文化祭、クラブに参加することによって、本校生徒が留学生への思いやりの心を言葉や行動によって表すことができている。(○) 同時に、行事に参加した留学生から本校生への感謝の言葉を聞くことができた。(○) ・30年度の留学生二人は、それぞれ食物クラブとバレーボールクラブに所属して、クラス以外の生徒との交流や学校生活を楽しんだ。(○) ・今年のAFSの留学生は、人とかかわるのがあまり好みではなく、これは母国でもおなじであったようだ。クラブには参加したが、クラスにも特に親しい友人を作ろうとはしなかった。教員とのかかわりにおいても同様であった。(△)
	③ 英語によるプレゼンテーション力の向上	③ 英語によるプレゼンテーション力の向上 英語弁論大会の開催(大会本選10名前後) ・3分の英語スピーチを行い、ネイティブの教員、英語科の教員がジャッジにあたる。 ・スピーチはオリジナルのものとし、内容・発音・流ちょうさ・話しぶりを評価する。 ・1年留学の帰国生が大会の司会・運営を担当。	③ 英語によるプレゼンテーション力の向上 ・発表者候補の応募者確保 生徒への呼びかけ ・英語力の向上 ・プレゼンテーション技術の養成	③ 英語によるプレゼンテーション力の向上 ・応募者18名(高校生3名、中学15名)で、多くの応募者があった。 今後は高校生の参加を促す必要がある。(○) ・今年も高校生の応募者が少なかった。 今後、大学受験で求められる英語力も、従来の読み書きに偏ることなく、聞く話す力も要求されてくる。是非、このような機会を利用してほしいと考えている。 より多くの高校生の参加が望まれる。(△)
	④ 英語力の習得	④ 英語力の習得 大谷1年留学【本校独自の留学システム】 ・ニュージーランド姉妹校および提携校(約20校)に1年間留学期間(高1・Ⅲ学期～高2・Ⅱ学期) ・1現地校に1大谷生 大谷3か月留学【本校独自の留学システム】 ・ニュージーランド姉妹校および提携校に3か月留学期間(高1・Ⅲ学期) パーケンヘッド1名・バ克蘭ガ1名が参加	④ 英語力の習得 ・一年間の留学で自ら発信するに必要な英語力を習得し、家族から離れて異文化の中で生活することにより自立心を養う。 ・現地校で1termの期間、留学生活を送る。異文化で生活することにより、様々な価値観に触れ、視野を広げる。 また、英語を話すことへの抵抗感をなくし、興味を深め、今後の勉学への意欲につなげる。	④ 英語力の習得 ・12月に5名の留学生在が帰国した。 5名の生徒は留学当初から、現地の生活に馴染む努力をした。 それぞれの留学校へ行ってからも、学校生活はもちろん、課外活動にも参加しボランティア活動にも積極的であった。(◎) ・英語の高い運用能力をつけて帰国した。(○) ・1月からは4名の生徒がNZ1年留学に参加している。 ・今年度Ⅱ期目となる3か月留学制度に、1名の生徒が応募し、短期間ではあるが、貴重な経験をして帰国予定。(○)

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒募集・広報活動 (中学)	① 募集定員の確保			
	ア) 塾対象説明会	(1) 塾教室対象説明会 4月18日(木) 於:本校 (2) 第1回塾対象説明会 5月16日(木) 於:本校 (3) 第2回塾対象説明会 9月4日(水) 於:ハルカスキャンパス 9月12日(木) 於:新阪急ホテル (4) 特定塾生対象体験会・見学会 塾生対象 5月12日(日) 塾生対象 7月13日(土)	(1) 目標動員数、主要な先生および新しい先生の参加を要請。 (2) 目標動員約150名。 (3) 目標動員数両日で約160名。 (4) 目標動員数30名以上。	(1) 20名の主要な先生および新しい先生に来院いただくことができた。(○) (2) 昨年比微増で動員できた。(◎) (3) 両日来場者数は昨年と同数で160名超えの目標を達成できた。(◎) (4) 5月1の塾生対象は昨年比マイナス30となり、2年連続のマイナスだった。(△) 生徒説明や案内は高評価だった。(◎)
	イ) 塾訪問	(1) 訪問回数や範囲は昨年より減少しないようにし、かつプレテスト後の訪問を丁寧に行う。 (2) 遠距離にある塾や個人塾へは担当を決め、継続的に訪問する。 (3) DMリストを精査し、広報内容によって、送付リストを使い分ける。	(1) 担当者の顔が見える形で、確実かつ多くの出願に繋げること。 (2) 担当者の顔が見える形で、イベント参加や出願に繋げること。 (3) 有力な中学受験塾に対して大谷中学校の名前や取り組みが、埋没しないようにすること。かつ、3か年課程の広報と抱き合わせることに よって知名度を上げること。	(1) 昨年より課題であったプレテスト後の訪問ができたことで出願増加となった可能性が高い。(◎) (2) 概ね計画通りだったが、新規開拓ができなかった。(○) (3) プレテスト参加者や出願者の所属する塾の数が増加したことから、一定の成果があったといえる。 一方、受験生が減少した塾は、訪問数や告知チラシを届ける回数が少なかったと思われる。(△)
	ウ) 保護者説明会	(1) 外部会場でのミニ説明会を増やす。 夏 7月5日(金) 於:ハルカスキャンパス 10日(水) // 17日(水) // 秋 10月16日(水) 於:千里阪急ビル 10月18日(金) 於:テクスピア 10月29日(火) 於:榎原文化ホール 内容 ミニ説明会と個別相談、3か年過程と同時開催 各回約60分、10:00~または15:00~または18:00~開始 (2) 「校長」講演会単独開催。 10月12日(土) 校長による講演会+説明会 於:ハルカスキャンパス (3) 新聞社等主催のブース形式説明会は昨年並みの参加数とする。 (4) 塾教室単位の説明会機会を増やす。 (5) 説明会会場のレイアウトや飾り付けを工夫する。 (6) 在校生の姿が見える形を心がける。 (7) 「デイリー個別相談会」をつくり、来校者数を増やす。 (8) プレテストの広報を早め、申込機会を増やす。	(1) 申込が1組でも開催し、イベント参加や出願に繋げること。 (2) 幅広い学年層の参加があること。 (3) 対外的知名度上昇を図ること。 (4) 前年度よりも開催機会が増えること。 (5) 来場者の満足度が高まること(アンケート結果など)。 (6) 来場者の満足度が高まること(アンケート結果など)。 (7) 保護者の学校への関心が冷めないうちに対応できること。 (8) 申込者前年度プラスにすること。	(1) 日時によって参加者数にばらつきがあったものの、初参加者で入学に繋がったケースもあったので、次年度も継続したい。(◎) (2) 広報期間の短さや、説明会が続く日程のため、参加者がなかった。再検討を要する。(×) (3) 新聞等での校名掲載の機会が一定数あった。(○) (4) 昨年度実施できていた塾での実施が叶わず、減少した。(×) (5) 会場の雰囲気やアンケート結果は良好であった。(○) (6) 上記(5)に同じ。(○) (7) プレテストの申し込みや出願に誘導できた。(◎) (8) エントリー前年比プラス59名。4年連続増加。(◎)
	エ) 新入生アンケート	(1) 卒塾生が通っていた塾への報告を正確にする。 (2) 入試広報イベントの時期や内容が適当であったか、検証する。	(1) 担任へのヒアリングだけでなく全体像がつかめること。 (2) 各イベントの改善につなげること。	(1) 新学期の塾訪問で意義ある情報提供ができた。(◎) (2) 次年度のプランニングの根拠となった。(◎)
	オ) 広報ツール	(1) 学校案内は、写真を多用する。 (2) 資料集を作成し、従来紹介しきれていないデータを掲載する。 (3) 大谷中高の活動報告のリーフレットをつくる。	(1) 明るく大きな写真でイメージアップにつながっていること。 (2) 学校案内の補足として、利用者にとって便利であること。 (3) 学校案内より手軽、かつ機動力のある内容になること。	(1) 概ね好評。(○) (2) 概ね好評。(○) (3) 編集担当者を分散することで、年3回の「きてみて大谷」の発行ができた。(◎)
	カ) 学内教職員への広報	(1) 入試イベント情報を常に知らせる。 (2) DM発送での手伝い呼びかけなどを通じて、外部状況を知らせる。 (3) 「相談ポイント」の作成を通じて「広報言語」を統一し、相談員や案内者によって ばらつきが出ないようにする。 (4) 玄関横掲示板を有効活用する。	(1) 教職員の意識向上をはかること。 (2) 直接作業に関わることで、広報活動への理解が深まること。 (3) 教職員全体が同じベクトルで広報できること。 (4) 新しい情報を掲示できるように、運動総務など他部署から情報提供 がされるようになること。	(1) より協力的になった。(○) (2) より協力的になった。(○) (3) ブース相談員の増加には結びついていない。(△) (4) 比較的更新されるようになった。(○)
	キ) 学校ホームページ	(1) 教職員に授業やクラブ活動の取り組みの情報提供を呼びかける。 (2) ニュース&トピックスの更新を、入試対策主任だけでなく主担も担当する。	(1) 情報提供数が1ヵ月に2件以上。 (2) 頻繁に更新されること。	(1) 文化部、運動部ともに文言と写真の提供が多くなった。(○) (2) 常に新しい情報が掲載されている。(◎)

項目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒募集・広報活動 (高校)	① 募集定員の確保			
	ア) 塾及び公立中学校先生対象説明会	(1) 第1回塾対象説明会 5月16日(木)於:本校 (2) 第2回塾対象説明会 9月4日(水)於:新阪急ホテル (3) 公立中学校先生対象説明会 9月12日(木)於:ハルカスキャンパス 8月29日(木)於:本校 10月3日(木)於:本校	(1) 目標動員約150名。 (2) 目標動員数両日で約160名。 (3) 目標動員両日で80名。	(1) 昨年同様140名を超える参加となった(◎) (2) 両日来場者数は目標を上回った。(◎) (3) 3か年課程開設の初年度に比べ、明らかに参加数が減少した。特に、10月は、公立中学の学校行事等の関係があり参加数は大幅に減少した。(△) 8月53名。10月19名。
	イ) 塾訪問	(1) 訪問回数や範囲をできるだけ拡充する。 (2) 遠距離にある塾や個人塾へは担当者を決め、継続的に訪問する。 (3) DMリストを拡充し、広報範囲を広げる。	(1) 担当者の顔が見える形で、確実かつ多くの出願に繋げること。 (2) 担当者の顔が見える形で、イベント参加や出願に繋げること。 (3) 3か年課程募集を周知徹底させること。	(1) 参事の手助けを借りることで、ある程度評価できるところまで拡充できた。(○) (2) 概ね計画通りだった。(○) (3) 新規開拓の塾も少なからずあったが、まだまだ周知徹底とまではいかなかった。(△)
	ウ) 保護者説明会	(1) 外部会場でのミニ説明会を増やす。 夏 7月5日(金)於:ハルカスキャンパス 10日(水) " " 17日(水) " " 秋 10月18日(金)於:テクスピア 10月29日(火)於:榎原文化ホール 内容 ミニ説明会と個別相談、6か年過程と同時開催 各回約60分、10:00~または15:00~または18:00~開始 (2) 新聞社等主催のブース形式説明会の参加数を増やす。 (3) 塾教室単位の説明会機会を増やす。 (4) 説明会会場のレイアウトや飾り付けを工夫する。 (5) 在校生の姿が見える形を心がける。 (6) 公立中学校PTA主催の、区単位の説明会や地区単位の説明会に参加。	(1) 申込が1組でも開催し、イベント参加や出願に繋げること。 (2) 対外的知名度の増強をねらう。 (3) 前年度よりも開催機会が増えること。 (4) 来場者の満足度が高まること(アンケート結果など)。 (5) 来場者の満足度が高まること(アンケート結果など)。 (6) 1年目に参加した地区は勿論、新たな地域に参加依頼を取り付ける。 参加依頼があった場合は、必ず参加する。	(1) 3か年課程の参加はまず望めないことがわかった。時間設定も含め、検討が必要(△) (2) 新聞等での校名掲載が増えた。(○) (3) 継続できた。(◎) (4) 会場の雰囲気やアンケート結果は良好であった。(○) (5) 上記(4)に同じ。(○) (6) 参事の人脈と奮闘で、左記の説明会に参加できた。(○)
	エ) 広報ツール	(1) 学校案内は、写真を多用する。 (2) 塾生用の説明会案内チラシを作成し、送付する。10月、11月の説明会 (3) 大谷中高の活動報告のリーフレットをつくる。	(1) 明るく大きな写真でイメージアップにつながっていること。 (2) 各塾生が、大谷の高校受験実施を知り、説明会に参加すること。 (3) 学校案内より手軽、かつ機動力のある内容になること。	(1) 概ね好評。(○) (2) 説明会の集客には大きくは結び付かなかった。(△) (3) 編集担当者を分散することで、年3回の「きてみて大谷」の発行ができた。(○)
	オ) 学内教職員への広報	(1) 入試イベント情報を常に知らせる。 (2) DM発送での手伝い呼びかけなどを通じて、外部状況を知らせる。 (3) 「相談ポイント」の作成を通じて「広報言語」を統一し、相談員や案内者によってばらつきが出ないようにする。 (4) 玄関横掲示板を有効活用する。	(1) 教職員の意識向上をはかること。 (2) 直接作業に関わることで、広報活動への理解が深まること。 (3) 教職員全体が同じベクトルで広報できること。 (4) 新しい情報を掲示できるように、運動総務など他部署から情報提供がされるようになること。	(1) より協力的になった。(○) (2) より協力的になった。(○) (3) より協力的になった。(○) (4) 比較的更新されるようになった。(○)
	カ) 学校ホームページ	(1) 教職員に授業やクラブ活動の取り組みの情報提供を呼びかける。 (2) ニュース&トピックスの更新を、入試対策主任だけではなく主担も担当する。	(1) 情報提供数が1ヵ月に2件以上。 (2) 頻繁に更新されること。	(1) 文化部、運動部ともに文言と写真の提供が多くなった。(○) (2) 積極的に更新されている。(◎)

2019年度 教員による学校自己評価

項目 番号	各項目について、下の1～4のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない	中高全体 (%)				今年度	前年度
		1	2	3	4	平均 評価	平均 評価
1	学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。	32.5	53.0	13.3	1.2	3.2	3.1
2	生徒の実態を組織的に把握し、教育課題を明らかにできている。	15.7	55.4	25.3	3.6	2.8	2.8
3	教育課題解決のための組織が機能し、解決のための方策を具体化している。	7.2	44.6	39.8	8.4	2.5	2.6
4	学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。	21.7	56.6	20.5	1.2	3.0	2.9
5	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。	14.5	48.2	36.1	1.2	2.8	2.8
6	建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。	36.1	53.0	9.6	1.2	3.2	3.1
7	朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。	67.5	27.7	4.8	0.0	3.6	3.5
8	今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができています。	27.7	56.6	14.5	1.2	3.1	3.1
9	宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。	49.4	48.2	2.4	0.0	3.5	3.5
10	教職員に対する宗教教育研修が意義あるものとして実施できている。	21.7	61.4	15.7	1.2	3.0	3.0
11	新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。	10.8	50.6	36.1	2.4	2.7	2.6
12	教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。	44.6	47.0	7.2	1.2	3.3	3.3
13	年間の学習指導計画について、各教科内でよく話し合っている。	26.5	44.6	26.5	2.4	3.0	3.0
14	学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。	6.0	25.3	57.8	10.8	2.3	2.2
15	学習指導計画は各コースの特性を踏まえたものになっている。	16.9	51.8	30.1	1.2	2.8	2.9
16	学習指導計画は生徒の実態を踏まえたものになっている。	13.3	50.6	34.9	1.2	2.8	2.7
17	常に生徒が理解できる授業をしている。	25.3	63.9	9.6	1.2	3.1	3.0
18	日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。	32.5	51.8	15.7	0.0	3.2	3.2
19	到達度の低い生徒に対する学習指導において、個別対応等を含めて工夫している。	22.9	44.6	31.3	1.2	2.9	3.0
20	学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫を行っている。	20.5	55.4	22.9	1.2	3.0	3.0
21	授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。	22.9	65.1	12.0	0.0	3.1	3.0
22	教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、教科毎の企画工夫を通じて学習指導力の向上に努めている。	20.5	55.4	24.1	0.0	3.0	3.0
23	学校内外の研修に参加し、学習指導の向上に努めている。	9.6	51.8	36.1	2.4	2.7	2.7
24	研修や研究の成果を報告し、校内全体で共有できるように努めている。	8.4	45.8	44.6	1.2	2.6	2.6
25	新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。	8.4	36.1	43.4	12.0	2.4	2.3
26	授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。	10.8	57.8	30.1	1.2	2.8	2.7
27	評価のあり方について検討する機会がある。	12.0	34.9	44.6	8.4	2.5	2.6
28	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。	16.9	54.2	26.5	2.4	2.9	2.7
29	生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。	18.1	61.4	18.1	1.2	2.9	2.8
30	本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をいねいに行っている。	34.9	51.8	12.0	0.0	3.2	3.1
31	私物のコンピュータ等のセキュリティ対策ができています。	31.3	55.4	12.0	1.2	3.2	3.1
32	ICT機器を利用した授業を実践している。	16.9	51.8	27.7	3.6	2.8	2.7
33	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	22.9	56.6	16.9	3.6	3.0	3.0
34	生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。	24.1	51.8	21.7	2.4	3.0	2.9
35	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。	36.1	53.0	9.6	1.2	3.2	3.2
36	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	33.7	55.4	9.6	0.0	3.2	3.2
37	生徒に接する時、挨拶や適切な言葉遣いができています。	36.1	51.8	12.0	0.0	3.2	3.0
38	校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、教職員の間で話し合う機会がある。	9.6	49.4	33.7	7.2	2.6	2.4
39	問題行動の指導にあたっては、規定を機械的に当てはめることなく、個々の生徒の行為に応じて適切に指導している。	32.5	56.6	8.4	2.4	3.2	3.2
40	いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。	28.9	53.0	16.9	1.2	3.1	3.2
41	人権尊重に関する委員会があり、人権に関する事象を研究・検討するとともに、本校の人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。	20.5	55.4	21.7	2.4	2.9	2.9
42	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。	10.8	37.3	44.6	7.2	2.5	2.5
43	人権教育の推進に取り組むための研修が行われている。	25.3	57.8	15.7	1.2	3.1	3.1
44	海外教育の取り国によって国際理解が深まっていると思う。	19.3	56.6	24.1	0.0	3.0	3.0
45	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	27.7	51.8	20.5	0.0	3.1	3.0
46	生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	20.5	57.8	20.5	1.2	3.0	2.9
47	部活動が盛んで、生徒もよく参加している。	15.7	51.8	30.1	2.4	2.8	2.8
48	ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。	28.9	60.2	10.8	0.0	3.2	3.0
49	学校の経営状況について教職員が理解している。	13.3	44.6	34.9	7.2	2.6	2.5
50	学園本部と学校との意志疎通が適切になされている。	3.6	20.5	53.0	22.9	2.0	2.1

2019年度 生徒アンケート

生徒のみなさんへ、以下のアンケートに答えてください。2018年度の学校生活をふりかえり、質問をよく読んで、まじめに答えてください。

なお、AからPまでは4段階より1つだけ選び、回答欄に数字を正しく記入してください。

1 : そう思う 2 : どちらかといえばそう思う 3 : あまりそう思わない 4 : そう思わない

		2019			
		1	2	3	4
A	朝礼、終礼にまじめに取り組んでいますか。	59%	35%	5%	1%
B	日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	34%	53%	11%	2%
C	日常生活で時間を守って生活できていますか。	38%	42%	16%	4%
D	挨拶・礼はできていますか。	51%	41%	7%	1%
E	授業は理解できていますか。	26%	52%	17%	5%
F	小テストや講習にまじめにとりこんでいますか。	34%	43%	10%	3%
G	毎日、家庭学習はできていますか。	28%	35%	27%	10%
H	学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。	27%	43%	21%	9%
I	大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。	34%	38%	21%	7%
J	家庭でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。(SNSを利用したことがない場合は5を記入)	52%	34%	5%	2%
K	大谷のホームページを見ていますか。	14%	7%	3%	46%
L	大谷の部活動は活発だと思いますか。	38%	42%	15%	5%
M	学校行事に積極的に取り組んでいますか。	43%	45%	10%	2%
N	家族と話し合う時間が取れていますか。	55%	31%	11%	3%
O	大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。	34%	44%	13%	9%
P	現在のクラスに満足していますか。	54%	31%	10%	5%
Q	大谷中学校・高等学校に入学して1番満足していることは何ですか。(下記より1つだけ選び、数字で答えてください。) 1.学習活動 2.進路指導 3.生活指導 4.学校行事・部活動 5.友人との関係 6.先生との関係 7.環境・雰囲気	8%	3%	1%	21%
※ J の項目で SNS を利用していない7% (2019年度) 4% (2018年度)		51%	4%	12%	

保護者アンケート 2019年度

保護者の皆様へ

お嬢様の学校生活をふりかえっていただき以下のアンケートにお答えください。

なお、A～Qまでの回答は4段階で1つだけお選びいただき、回答欄に数字を正しくご記入ください。

ご協力よろしく願いたします。

1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う 3：あまりそう思わない 4：そう思わない

		2019			
		1	2	3	4
A	大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。	58%	36%	5%	1%
B	お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	31%	54%	13%	2%
C	お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。	35%	43%	18%	4%
D	お嬢様は日常、挨拶ができていますか。	51%	40%	8%	1%
E	大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。	26%	49%	20%	4%
F	保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。	41%	46%	11%	2%
G	お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。	26%	39%	27%	8%
H	大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。	28%	51%	19%	2%
I	大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。	26%	48%	22%	4%
J	SNSやスマートホンの利用について、ご家庭で使用方法などの決まりを作っておられますか。 (但し、SNSを利用したことがない場合は5をご記入ください)	32%	36%	19%	8%
K	大谷のホームページを見ておられますか。	22%	30%	30%	18%
L	大谷のPTA活動は活発だと思われますか。	15%	48%	31%	6%
M	保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。	44%	46%	9%	1%
N	ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。	53%	40%	6%	1%
O	大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。	37%	50%	10%	3%
P	大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。	42%	49%	7%	2%
Q	大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。	31%	45%	19%	5%

JについてSNSを利用しないは2019年度5%、2018年度4%。

2019年（令和元）年度 教員・生徒・保護者アンケート概要と総括

【教員による自己評価アンケート】

○概要

教員による学校自己評価のために、別紙○の5 0 項目について、〔1：よくあてはまる・2：ややあてはまる・3：あまりあてはまらない・4：まったくあてはまらない〕の4段階評価アンケートを行った。アンケートの結果は、各項目について1を4ポイント、2を3ポイント、3を2ポイント、4を0ポイントとして全教員の評価ポイントを集計・平均し、〔項目評価ポイント〕を算出した。〔項目評価ポイント〕3.5以上の項目が2項目、2.5以下の項目が3項目であった。また、各項目内で1の比率が4 0 %以上のものは3項目、4の比率が1 0 %以上のものは3項目あった。

○教員の評価が高い項目

情操教育に関連する項目

- ・朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。
- ・宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早期勤行など）が意義あるものとして実施できている。

学習指導に関連する項目

- ・教科毎に学習指導計画を立て、指導にあたっている。
- ・日常の教科指導において教員間で個々の生徒に関する情報を交換し、協力して指導にあたっている。

生活指導に関連する項目

- ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。
- ・生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。

○教員の評価が低い項目

学習指導に関する項目

- ・学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。
- ・新任教員に授業方法の伝達指導を行うなど、育成に努めている。
- ・評価のあり方について検討する機会がある。

生活指導に関連する項目

- ・人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合う機会がある。

学校経営に関連する項目

- ・学園本部と学校との意思疎通が適切になされている。

○総括

アンケートの結果、学習指導において「個々の生徒に関する情報交換」「教科毎の学習計画」は高い評価となっている。「学習指導計画についての他教科との情報交換」「新任教員の育成」「評価の在り方の検討」や「人権尊重についての全職員での話し合い」については課題を残している。また、「常に生徒が理解できる授業をしている」については教員側は比較的高い評価であるが、過信することなく生徒アンケートと一致するように努めていかねばならない。生活指導においては「家庭との緊密な連携が取れている」としているが、保護者アンケートでは「大谷は保護者と話す機会を持っている」と思わない回答もあり、今後とも家庭と連携して生徒の育成に努めねばならない。「経営状況についての理解」については前年度より評価は高くなったが、「学園本部との意思疎通」は引き続き、評価が低く、教育現場と本部との関係の改善にはなお課題を残した。

【生徒への学校生活アンケート】

○概要

生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の1 7 項目について、〔1：そう思う・2：どちらかといえばそう思う・3：あまりそう思わない・4：そう思わない〕の4段階評価をさせた。全生徒のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で1の比率が4 0 %以上のものは5項目、3と4の比率が合計2 0 %以上のものは8項目あった。

○生徒の評価が高い項目

情操教育に関連する項目

- ・朝礼、終礼にまじめに取り組んでいる。
- ・挨拶、礼はできていますか。

学校生活に関連する項目

- ・学校行事に積極的に取り組んでいますか。
- ・現在のクラスに満足していますか。
- ・大谷の先生はあなたを大切にみてくれています。

家庭生活に関連する項目

- ・家族と話し合う時間が取れていますか。
- ・家庭内でSNSを利用する時に情報モラルに気をつけていますか。
- ・学校生活で1番満足していることは友人との関係

○生徒の評価が低い項目

学習活動に関連する項目

- ・毎日、家庭学習はできていますか。
- ・学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。

学校生活に関連する項目

- ・大谷のホームページを見ていますか。

○総括

昨年度と同様、朝終礼や、挨拶・礼などポイントは上昇している。学校行事や部活動にも積極的に取り組み概ね満足している。家庭での話し合う時間もある。但し、昨年度に比べて「授業は理解できている」の割合で、理解できていない生徒がやや増加している。「家庭学習」ができていない生徒も昨年度と同様にあり、課題である。また、昨年同様「SNSを利用する時に情報モラルに気をつけている」としているが、保護者アンケートでは「SNSやスマートフォンの利用についての決まりができていない」という回答もあり、情報リテラシーの向上に努めなければならない。「大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか」という項目で昨年同様に評価の低い生徒がいることは真摯に受け止め、教師と生徒間の意思疎通を今後も丁寧にしていかねばならない。

【保護者への学校生活アンケート】

○概要

保護者に対して、生徒の学校生活に関するアンケートを実施した。別紙○の1 7 項目について、〔1：そう思う・2：どちらかといえばそう思う・3：あまりそう思わない・4：そう思わない〕の4段階評価をさせた。全保護者のアンケート結果を集計し、各項目の評価比率を算出した。各項目内で1の比率が4 0 %以上のものは6項目、3と4の比率が合計2 0 %以上のものは9項目あった。

○保護者の評価が高い項目

情操教育に関連する項目

- ・大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。
- ・お嬢様は日常、挨拶ができていますか。

家庭生活に関連する項目

- ・ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。

安全管理に関連する項目

- ・大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。

○保護者の評価が低い項目

学習指導に関する項目

- ・大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。
- ・お嬢様は家庭学習の習慣が身についていると思われますか。

○総括

保護者の方には例年以上に本校の教育理念に賛同をしていただいている。挨拶をはじめとした基本的な生活習慣も身につけており、家庭での話し合いもほぼ十分にとれている。しかし、昨年度と同様、生徒アンケートと共通して「家庭学習の習慣」が身につけておらず、「生徒のニーズにあった教育課程・学習指導」も課題を残した。また、「ホームページ」「PTA活動」についても課題があり、一層の改善が必要である。

令和元(2019)年度学校関係者学校評価委員会 結果報告

令和元(2019)年度学校関係者学校評価委員会は新型コロナウイルス感染予防のために書面会議とした。令和2年7月、外部委員の方々に学校の自己評価資料を送付し、ご質問やご意見をいただいた。以下、課題、対策、質問、意見を報告する。評価委員会からは、教育活動全般および細部にいたるまでよく対応していると評価を受けた。

1. 課題 生徒募集について

a. 生徒募集（高校）自己評価ア、ウについて「公立中学校先生対象説明会、保護者説明会に課題があり。」

2年目となる高校募集について、まだまだ周知徹底されていない。

b. 自己評価エ「広報ツール」

大谷は宗教学校で「規律正しい」イメージがあるが、受験生の保護者に明るく個性を伸ばす学校としてPRしていけないか。

対策

a. 公立中学校先生対象説明会や保護者説明会では来校しやすい日程を工夫していく。また、受験生が参加できやすい時間設定にし、学校の雰囲気や在校生とのふれ合いの場を設けていく。高校募集2年目となっても高校受験は周知徹底されていないので、さらなる広報活動を進めていく。

b. 活躍する卒業生を入試説明会、HP、パンフレットの記事ですすでにご協力いただいている。活躍する卒業生は大谷の強みであるので、今後も大いに広報活動に取り入れていく。

2. 課題 学習指導について

a. 中期的目標③「基礎学力を定着させる。」

小テストへの取り組みが改善され、基礎学力の定着に効果が現れたが、スローラーナー対策が十分できていない。

b. 生徒アンケートG・保護者アンケートG「家庭学習の習慣」

家庭学習習慣が十分でない生徒が一定数いる。

c. 自己評価④「コースに応じた学力向上の取り組み強化」「アクティヴラー

ニング授業について」の具体例

アクティブラーニングの具体例と効果について

d.学習指導自己評価①「教員の授業力向上について」

大谷のICTの活用について

対策

- a.スローラーナー対象の補習を適切な時期に対象者をしぼって行っていく。
- b.ご家庭と学校が連携し、生徒が生活リズムを整え、自主的に家庭学習の時間をもつよう指導していく。また、学校での自習室の充実をはかっていく。
- c.アクティブラーニングについては、生徒が主体的に学んでいく学習態度を今後も継続していく。生徒たちは、テーマの課題資料をグループで話し合いをし、テーマ全体への課題の理解を深め、課題解決をしていく。今後も、発表の機会を設けてゴールの達成を目指していく。
- d.教員のICT機器の活用が増え、生徒の主体的に学ぶ意欲を高めている。2019年には全教室にプロジェクターを設置できたため、有効活用ができている。

2020年コロナ禍の対策としてハイブリッド型をとった。4月はじめに職員会議をおこない全教員が遠隔授業として授業の動画配信を準備した。ユーチューブを介し、約500授業のコンテンツを配信した。5月連休明けからはマイクロソフト・チームズを使用して、双方向型の遠隔授業をおこなった。一方で手作り教材を郵送し、担任から各家庭への電話連絡をおこなった。授業再開後、リモート委員会を立ち上げ、遠隔授業についての生徒アンケートを実施。8割以上が好評という結果となった。今後も感染状況によっては遠隔授業をする必要があるため、ハイブリッド型で対策をしていく方針である。

3. **課題** 進路指導について

a.自己評価①「コース制を生かした丁寧な進路指導」ア) 講習について
講習を定期的に行うことに重点を置くのではなく「この単元の強化」「〇〇講習」のように各教科担当で事前に話し合ったほうがよいのではないか。

b.自己評価①「コース制を生かした丁寧な進路指導」ア) チューター制について

チューターの選抜について

対策

- a.講習の在り方については課題がある。効果的で十分な成果があがるよう学習指導委員会の検討課題としていく。

b.チューターを要する学年、教科により、在校時の学習状況や進学した大学などを考慮して選んでいる。卒業生はチューターに教えてもらった経験があるので、喜んで参加している。

4. **課題** 生活指導について

・ 中期的目標① 「ていねいな言葉遣い」について

対策

・丁寧な言葉遣いについては、まだ十分とは言えないので、教員自らが生徒に反映するように今後も努力していく。

5. **課題** 海外教育について

・ 中期的目標① 「国際感覚の育成」について

今後、コロナ禍のなかでの大谷の国際交流について

対策

・コロナ禍のなかでは、オンラインでグーグル・マイクロソフト・チームズを利用しての姉妹校交流を実現する方策を検討していく。

6. **課題** 教員養成について

・ 教員アンケート25 「新任教員の育成」について

多様な生徒がいる中で、進路実現につながる学力の向上のためにも専任・常勤・非常勤と分け隔てなく、教員に向けた生徒指導や授業指導などの指導があればよい。

対策

・新任教員の研修については、十分ではないのでフォローをしていく。

☆評価委員の方々からのご意見

- ・ 2020年コロナ禍のなかで、大谷のICT教育について尋ねたい。
- ・ 女子校として学習指導、生活指導ともに魅力がある。公立にはない宗教的情操教育で素晴らしい女子校を作ってほしい。今後の高校3か年生の進学実績を待ち、受験生が選択できる学校があることを期待している。
- ・ 2020年度のことにはなるが、コロナ禍での心配は授業の遅れなのでフォローをしてもらいたい。
- ・ 安全で安心して学校に通わせる環境をつくってほしい。大谷生は創造性に長けており、活動の場で生かされている。今後も生徒たちの力を伸ばして行ってほしい。
- ・ 評価を通して学校が教育目標に向かって指導面を強化していることが感じられた。進路指導、生活指導、海外教育においては、指標を達成しており、先生方の日々

の手厚い指導が感じられた。学習指導面においては、外部教員派遣、学力向上の対策、講習等、様々な手段をとっているが、基礎学力の向上には課題を残している。

- ・ 進路指導において、国公立への進路実現に向けた取り組みの強化や、医学部進学に向けた医師体験、看護師体験など、実際の現場を体験する貴重な機会を提供できていることが高く評価できる点だと感じた。他校においても、医学部大学との連携や、学内での医学関連のフォーラムを行うなど様々な工夫を実施し、医学部受験への意識を高める傾向にあるので、本校もさらに新たな実践を試み、生徒のモチベーションアップに繋がればと思う。
- ・ 生活指導面においては、登校指導や日頃の先生方の手厚い指導により、生徒たちの挨拶への積極性や、一つ一つの振る舞いにも礼儀正しさを感じる人が多い。また、クラス内においても遅刻者や生徒間での大きなトラブルは少ないように感じた。この点は、先生方が生徒をよく見ていること、また積極的に声をかけてくださることが大きく影響していると感じ、高く評価できると感じる。
- ・ 海外教育にも力を入れており、多様な価値観を認めることができる生徒を育成する様々な教育活動が展開されていると感じた。その結果、外大系への進学、大学進学後の海外留学、英語を生かした就職など、どのように生徒たちが良い方向へと繋がっていくかという実績があれば、海外教育への功績をより感じるができると思われる。
- ・ 生徒たちが社会で正しく生きていくための教養をつけ、進学校としての高度な学力養成をはかるため、生徒たちの進路や将来について、先生方が日々配慮し尽力していることである。さらに徹底をはかるためにも保護者の協力が大きく影響すると感じる。アンケートの、"生徒の学習状況の伝達"や"適切な学習指導"の項目において、より多くの保護者の方に賛同してもらえるよう、今後も教員一同、努力していきたいと感じる。
- ・ アンケートや保護者会だけにとどまらず、webを通じて、情報発信を行うことで、保護者の目を常に学校に向けさせることに重点を置くべきだと考える。生徒たちが自発的に勉強、生活態度を改善することが理想ではあるが、やはり、教員そして保護者の指導があって、生徒たちの日々の生活習慣の改善、勉強への意識向上に繋がると考える。
- ・ 丁寧な進路指導や講習やチューターの活用など様々な取り組みを行っていることは評価できると感じるが、高校1年、2年の段階でも自分の目指す方向性が見えていない生徒が多いと感じる。授業内容の充実を図ることも重要ではあるが、早い段階より、将来の夢や進路の希望などを生徒たちが深く考えることができるよう、ホームルームの中でそのような場を設け、各々の教師達が意識的に語っていくことが大切ではないかと考える。
- ・ 生徒一人ひとりのニーズにこたえる様々な自習環境が整っていないように感じる。生徒の勉学への意識、成績の向上につなげるためには、やはり、生徒が自ら学ぶ

姿勢を身につけることだと考える。そのために、個別の自習ブースや、教師への質問ができる職員室前の廊下スペースを広く設置する、できるならば自習ホールを設置し、学生チューターを置くなど生徒の学習習慣を養うことが大切かと考える。設備の整った自習スペースを確保できればと考える。

- ・ 2020年度以降の教育改革にむけ、探究型の学習を進め、主体的に学ぶ姿勢を育てるために小論文を書かせるなどの取り組みとあるが、社会において必要なことは、書くスキルだけではなく、教養があり、高いコミュニケーション能力も問われることが多い。自分の意見を持ち、それを具現化するためにどのように行動できるかをしっかり語る能力が大切だと思う。英会話の授業で自発的に考え、声に出すことに苦手意識を持っている生徒が多いように感じる。中学の段階から、自主性を重んじ、自分で考え行動できる場、発言できる場を提供できないかと感じる。
- ・ 海外にも姉妹校があるので、連携を取り、テレビ会議を利用し生徒間で交流させることを実現できないか。これは「聴く」「話す」の2技能の習得を目的とした外国語教育の実践にもあたり、英語に対しての苦手意識や自尊心の低さを有する生徒に対し、生徒が成長するきっかけになるのではないかと感じる。受け身であった生徒が主体的にかかわれるようになっていたり、活発に議論に参加できるようになったりと生徒の意識・態度の成長が見られる。ICTを活用した外国語教育の実践は、生徒の成長だけでなく、学校のアピールポイントとしても大きく成長すると思われる。関西でも実践している学校はまだ少ないため、ぜひ実践できればと思う。
- ・ 大谷の印象について宗教的な背景からか「かたいイメージ」を抱いている人が多い。よく言えば、「規律正しく」という意味にもなるが、昨今の時代における保護者は「個性」を伸ばし、自主性を高めることへの成長を重んじている人も多い。そのような保護者の方にも、本校を明るいイメージの学校ととらえ、未来を担う学生たちが夢の実現へ向けて努力できる環境が整っていること、個性を伸ばし、学習意欲を高めていける学校だと認識してもらえようPRできないかと考える。
- ・ 卒業生として厳しさの中にも先生方からの愛情を受け、報恩感謝の精神に基づき、人として規律正しく生きることを学び、そして豊かな心を育てて頂いた。その土台があったからこそ、大学や社会においても粘り強くどんなことにも挑戦できたと感じる。私学の女子募集が厳しい状況下で、生徒を確保することは難しいことだと認識しているが、今一度、視点を少し変え、本校の良きところを大きくアピールし、学校のPRに取り組むことで、生徒確保に繋がるのではないかと考える。

以上